

そ の 他

4. 群馬県における HIV/AIDS の発生動向と保健所での受検者数

武智 浩之 (群馬県安中保健福祉事務所)

今回は 2010 年から 2015 年までのデータを用いて検討した。群馬県における HIV 感染者と AIDS 患者を合わせた年間報告数は平均 15 件 (8 件から 21 件) であった。その報告数にのしめる保健所で発見された割合は全国の報告 (30% 程度) と比較して群馬県は低かった (0% から 27.3%)。保健所が HIV 検査の受検機会の場として十分に活用されていないことが示唆された。また、群馬県では全国と比較して 10 万人あたりの受検者数が少なかった。さらに、報告数に占める AIDS 患者 (いきなりエイズ) の割合は全国の報告 (30% 程度) と比較して群馬県は高い年が多かった (6 年間で 5 年)。これらは受検するタイミングの遅れや潜在的な感染者の存在を示唆する。新たな感染者を生み出さないようにいっそうの検査機会の周知や予防啓発活動の推進が重要と考える。

ビ デ オ

5. 公立富岡総合病院における腹腔鏡下前立腺全摘除術の導入経験

古谷 洋介, 根井 翼, 田中 俊之

塩野 昭彦, 町田 昌巳

(公立富岡総合病院 泌尿器科)

上井 崇智 (桐生厚生総合病院 泌尿器科)

武井 智幸 (公立藤岡総合病院 泌尿器科)

内田 達也

(公立藤岡総合病院附属外来センター)

中村 敏之 (館林厚生病院 泌尿器科)

【結 言】 当院で 2016 年 1 月から腹腔鏡下前立腺全摘除術 (LRP) を導入し、2016 年 10 月までに 12 例を経験した。導入初期の経験について報告する。【対 象】 症例数 12 例, 術前 PSA: 3.2~9.3 ng/ml (中央値 6.25 ng/ml), 臨床病期は全て T2 以下, 術前グリーソンスコア 6: 5 例, 7: 6 例, 8: 1 例。【術 式】 腹膜外アプローチ, ポート 5 本で手術施行。全例で両側閉鎖リンパ節郭清を施行。【結 果】 手術時間: 175~276 分 (中央値 209.5 分), 出血量 (尿込み): 250~1,000 ml (中央値 350 ml), 他家血輸血なし。病理病期 pT2: 10 例, pT3a: 1 例, pT3b: 1 例, 断端陽性: 1 例。術後確認し得た 9 例全てで PSA は陰性化した (PSA 0.0 ng/ml)。術後尿禁制率 (パッド 1 枚以下/日) は 1 ヶ月で 22.2%, 3 ヶ月で 66.7% であった。【結 語】 LRP を安全に導入することができた。

<セッション II>

座長: 藤塚 雄司 (群馬大院・医・泌尿器科学)

6. 腎血管筋脂肪腫に対する腹腔鏡下腎部分切除術の経験

岡 大祐, 中嶋 仁, 牧野 武朗

悦永 徹, 齋藤 佳隆, 竹澤 豊

小林 幹男 (伊勢崎市民病院 泌尿器科)

【症 例】 52 歳, 女性。【現病歴】 人間ドックにて左腎腫瘍を指摘され当院を受診。CT, MRI にて左腎下極から連続した 13 cm × 8 cm 大の脂肪成分を含んだ腫瘍を認めた。左腎血管筋脂肪腫の疑いと診断し、腎生検を施行。病理診断は左腎血管筋脂肪腫であり、腹腔鏡下左腎部分切除術を施行した。右側臥位、経腹膜アプローチで手術を開始した。腎動脈を同定、剥離後、エコーで腫瘍を確認。正常腎と腫瘍の間には溝があり、そこを切離線とした。腎切離面は吸収糸にて実質縫合し、遮断解除後に少量の出血を認めたためサージカルシートにて止血した。手術時間 5 時間 29 分, 温阻血時間 24 分, 出血少量であった。術後経過は良好であり第 9 病日退院となった。現在まで腫瘍の再発や腎機能の低下を認めていない。【結 語】 腎血管筋脂肪腫に対して腹腔鏡下腎部分切除術を施行した症例を経験した。手術動画を供覧し、報告する。

7. 桐生厚生総合病院における腹腔鏡下膀胱全摘除術導入の経験

上井 崇智, 林 拓磨, 岡本 亘平

(桐生厚生総合病院 泌尿器科)

内田 達也, 武井 智幸

(公立藤岡総合病院 泌尿器科)

古谷 洋介 (公立富岡総合病院 泌尿器科)

当院では平成 24 年 5 月に腎摘除術、尿管全摘除術に対し腹腔鏡手術を導入、その後腎部分切除術、前立腺全摘除術と適応を拡大してきた。今回平成 28 年 6 月に腹腔鏡下膀胱全摘除術を導入、現在までに 2 症例を経験した。手術時間は 6 時間 22 分, 5 時間 55 分, 出血量は 194 ml, 26 ml であった。膀胱背側の視野を確保することで膀胱側方、前立腺側方の処理を安全に施行することが出来るのが大きな利点と思われた。また低侵襲により ADL の回復が早く、それぞれ術後 13 日目, 18 日目に退院された。合併症として 1 例にドレーン抜去部の小腸嵌頓ヘルニアを認めた。腹腔鏡手術ビデオを供覧しながら報告する。

8. 当院で経験した腹腔鏡下腎部分切除術の一例

村松 和道, 青木 雅典, 蓮見 勝

清水 信明

(群馬県立がんセンター 泌尿器科)

症例は 49 歳女性。左腎癌の診断で腹腔鏡下左腎部分切除術 (後腹膜アプローチ) を施行した。ポートは通常の腎摘